

新刊のご案内

# 「治るうつ病」と 「治らないうつ病」

富澤 治 著

## 「私、『うつ病』じゃなかったの!?!」 現代の「うつ病」を精神科医が紐解く

人が「うつ病」という病にかかるといこと、「うつ状態」という症状を呈すること、  
あるいは人は場合によっては「抑うつ的」となること、これらの出来事の本質とは何だろうか  
(おわりにより)

富澤  
治

「治るうつ病」と  
「治らないうつ病」

はじめに

「私はうつ病なんですか?」／落ち込むこと、悲しくなることは人間の自然な感情／  
「うつ」の持つ「二つの意味」／  
「症状としてのうつ」は「もともとのパターン」からの降下である／  
「症状としてのうつ」はその本人しか解らない／症状には原因がある／  
「治療」とは、普通は「原因の解決」であるはず／「症状」をもたらしている原因が「病気」／  
「うつ病」は「症状としてのうつ」をもたらす原因(病気)の「一つ」／  
「うつ病」は変わった／二十年前の「うつ病」／二十年前に教えられたこと／今のうつ病／  
うつ病は二十年間で十倍に増えた／「他の病気」は増えていない／うつ病だけが増えた／  
何故「うつ病だけが」増え、治りにくくなったのか／「操作的診断」の導入と台頭／  
「原因論的診断」の放棄／原因論の放棄は、結局「客観性」の喪失にしかならなかった／  
昔(二十年前よりも以前)は原因論を標榜していた／しかし、「内因」は見つからない／  
人間の精神機能のすべてを物質論的には説明できない／  
「発熱」も「症状としてのうつ」も「何かの意味」がある／自然科学的発想の限界／  
均一な疾患でなくなった「うつ病」／「はじめに」の結論

第一章「うつ状態」ではないかと思ったら

症状論としての「うつ」／主要な二つの症状／随伴してよく起こる症状／睡眠障害／  
食欲・性欲の異常／身体症状／不安症状

第二章「うつ状態」の診断と治療

診断／「本来的なうつ病」の治療／治療／本来的なうつ病の治療／  
「自動思考」と「スキーマ」の改変／本来的なうつ病ではない「うつ状態」に対する心理療法／  
精神分析的な人間理解／心理療法の実際

第三章「治るうつ病」と「治らないうつ病」

本来的なうつ病の治療／「治らないうつ病」とは何か?／現在の医療制度上の問題／  
日常的な診療の中で、どう治療を続ければいいのか／「セカンドオピニオン」／  
主治医(治療者)を変える／主治医とうまくつきあうには／保険診療は薬の調節だけではない／  
おわりに

生の本質を考える／生物学的な生／実存的な生／人はいつも臨死である／幻想としての死／  
日本人の死生観を支えるもの／

著者略歴

2000年東京医科大学講師。

2004年とみさわクリニック開設。

日本芸術療法学会理事。日本サイコセラピー学会理事。

ISBN978-4-904110-03-4 新書判・並製/126頁

定価：本体660円＋税

発行日：2010年5月27日